

を上回って履修させている学校数である。

科 目	学 校 数		
	1 年	2 年	3 年
物 理 I		35(3)	27(1)
〃 II			36(36)
化 学 I	20	42(1)	
〃 II		2(4)	45(41)
生 物 I	56(4)	2(1)	
〃 II		7(4)	41(41)
地 学 I	25(4)		12(5)
〃 II			16(16)

1年では、生物Iと、化学Iあるいは地学Iのいずれかを履修させ、2年では、物理Iと化学Iの履修が圧倒的に多い。3年では、各科目、主としてIIの科目が、選択として履修され、理科系進学者のため増加単位を設けている学校が多い。

「芸術」

芸術も、学年別に履修される科目をあげる。

科 目	学 校 数		
	1 年	2 年	3 年
音 楽	55	47	26(6)
美 術	42	44	23(6)
書 道	27	29	21(4)
工 芸	3	5	2

()の中は、理科の場合と同じ。

芸術は、1・2年までに、音楽、美術のいずれかを選択で履修させる学校が多い。

3年まで履修を継続する学校は半数以下である。

「英語」

科 目	履 修 単 位 数	学 校 数
英 語 A (9)	16	2
	15	1
	14	3(2)
	13	2(1)
	12	6(4)
	11	3(3)
		22 (11)

科 目	履 修 単 位 数	学 校 数
	10	4(1)
	9	1
英 語 B (15)	20	4
	19	10
	18	11
	17	12
	16	5
	15	5
		47

英語Aを履修させる学校の中で、()内の数字は、1年では全員英語Bを履修する学校数を示す。

1・2・3年を通して、英語Aを履修させるのは、分校(7)の他は、僻地の小規模校(4)である。

英語の増加単位は、1・2年では1単位程度で、他は3年にあてられている。

英語会話(3単位)を履修する学校は2校にすぎない。

「保健体育」は、学習指導要領に示された通りに、すべての学校で履修されている。

「職業教育に関する科目」の履修状況は、次の通りである。家庭科は、必修4単位をこえる単位数を示す。()内は分校数である。

科 目	履 修 単 位 数	学 校 数
農 業 関 係	2 ~ 14	8(6)
商 業 関 係	2 ~ 11	32(7)
家 庭 関 係	2 ~ 14	41(7)

普通科高校は、大学受験を目標とする教育課程を編成する傾向が強く、職業教育に対する配慮に乏しい。女子生徒のため、家庭関係の科目が多いのは当然である。商業関係科目を10単位以上履修させるのは7校にすぎず、そのうち4校は分校である。

(3) 類型(コース)の設定

学習指導要領、第2節、第1款1の(4)に、「生徒の能力・適性・進路等に応じてそれぞれ適切な教育をほどこすため、必要により、教育課程の類型を設け、そのいずれかの類型を選択して履修させるよう